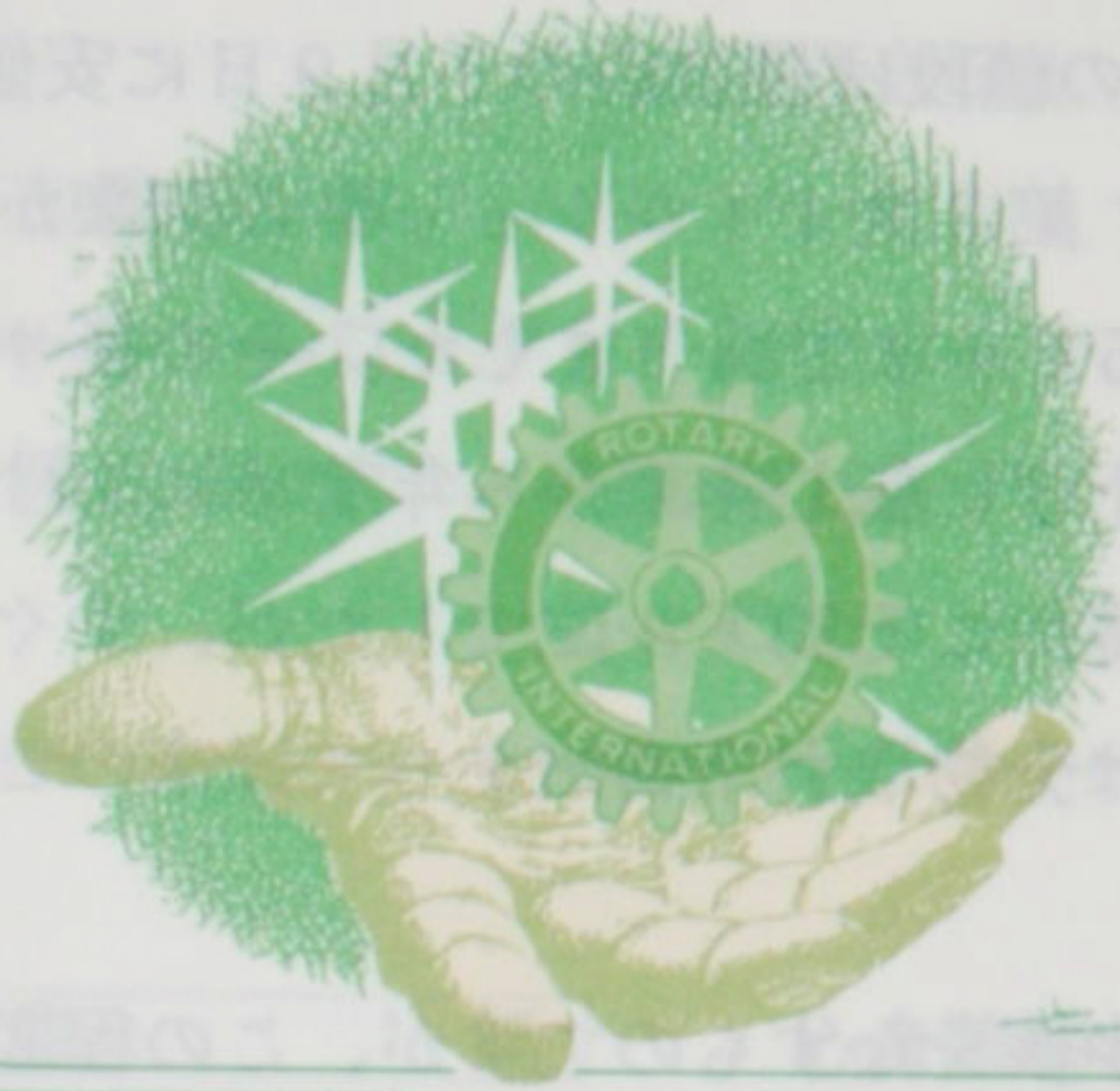


VALORIZE ROTARY
COM
FÉ E ENTUSIASMO



ロータリーを高めよ 思いを尽くし熱意を尽くし

1990-91年度国際ロータリーのテーマ

- 国際ロータリー会長 パウロV.Cコスタ ●第256地区ガバナー 原 猛
 - 会長——小林九満太 ●副会長——渡辺 宏策 ●幹事——斎藤 弘文
 - SAA——渡辺 喜彦、五十嵐 力 ●例会日——毎週水曜日 12:30～
 - 例会場——三条市旭町2-5-10 三条信用金庫本店 TEL 34-3311
 - 事務局——三条市旭町2-5-10 TEL 35-3477
- (FAXも同番号 午後3時以後はFAXに切り替わります)
- クラブ会報委員——渋谷 正一、金沢 興宗、木許 紘一、池田 千秋

出席者会員数	会員 76名中 49名
先々週出席率	89.19% (前年同期 91.67%)
今日のお花	デンハーレ
ヴィジター	三条南より 金子六郎君 三条北より 石川勝行君、江口 悟君 燕より 五十嵐荘一君 東京小石川より 白倉昌夫君
ゲスト	いからしの里 園長 高橋文平殿
先週のメイクアップ	3/7 ローターアクトへ 松谷昊吉君 3/7 燕へ 細井増雄君 3/11 三条南へ 山本福七君、鈴木宗資君、五十嵐総一君、 近藤雄介君 3/11 新潟北へ 渋谷健一君 3/12 三条北へ 広岡豊作君、大谷幸平君、池田千秋君、 五十嵐晋三君、外山雅也君

会長挨拶 小林(九)会長

去年の8月2日のイラクのクエート侵攻以来湾岸危機と共に、石油の値段がどうなるかが世界の心配の種でございました。アメリカのW.T.Iの値段は侵攻前の7月9日に安値16.5ドルでしたが、イラクの侵攻とともに急騰に転じ、第3次オイルショックの到来かと云うことで上げ続け瞬間的でしたが、10月10日に41.15ドルまでありました。その後サウジなどの増産でイラク、クエートの減産を埋めた為、下げに転じ年末から年初めにかけて、25~30ドル位で推移しました。1月16日の開戦当日は寄付こそ33ドル位でしたが、すぐ下げ始め23ドルまで下げました。10ドルの下げと云うのは先物取引市場始まって以来のことだそうです。短期間の勝利を見たわけです。

現在は18~20ドル位です。石油の値段は商品相場の中核をなすものですが、この程度の値段ならインフレも起らず全世界がほっとしているところです。暫くこの相場が続く見透しだそうです。

幹事報告 斎藤(弘)幹事

◎例会変更のお知らせ!

- 加茂RC — 3月14日(木) ワイン例会 PM6:30~ 於 会議所
- 4月18日(木) 山菜例会 PM6:30~ 於 若竹

◎クリーン協議会より

- ・平成3年度三条クリーン協議会定期総会開催のご案内がとどいております。
と き 3月18日(月) PM7:00~
ところ 越前屋ホテル
- ・第1回担当者会議開催のご案内がとどいております。
と き 3月15日(金) 正午~
ところ 三条商工会議所 2階 役員室

ニコニコボックス ¥11,000

- 渡辺(宏)君 いからしの里高橋園長殿を歓迎して。
- 加藤(紋)君 いからしの里高橋園長殿をお迎えして。
- 上木君 本日の卓話に、いからしの里高橋園長さんをお迎えして、お忙しい所有難うございました。
- 伊藤君 ヤブ用があって早退させていただきます。いからしの里高橋園長よろしくお願ひ致します。
- 川又君 ドイツ、ケルンメッセに行ってきました。又、以前ロータリーにお世話になったロンドンに居る娘に合って来ました。

- 渡辺(喜)君 ・先回欠席させていただきました。
- ・先日、妻の誕生日プレゼントをいただきありがとうございました。
- ・次週例会日も、息子の大学卒業式出席の為、欠席させていただきます。
- 加藤(征)君 メンバーに加えて頂いたことに感謝いたします。

ロータリー財団ボックス ¥3,000

- 渡辺(喜)君 御陰様で息子がようやく大学を卒業して、4月より就職させていただくことになりました。

卓話 心身障害者更生施設「いからしの里」の現況など

いからしの里 園長 高橋文平殿



本日は、皆様方の例会にお招きいただき誠に恐縮いたしております。日頃皆様方の社会奉仕活動に対しまして敬意をいただいているところでございまして、特に私共の施設「いからしの里」にも目を向けていただき、施設関係者一同感謝申し上げておまして、この席をお借りいたしまして厚くお礼申し上げます。今後ともよろしくお願ひいたします。

そこで今日は、私に話しをするようにとのことですが、まだまだ皆様方の前でお話しをするような器ではないと、

ご遠慮申し上げましたのですが、それでもとのお話して、それでは精神薄弱者更生施設「いからしの里」の現況をお話しをして、更に認識を深めていただきたく出て来た次第でございます。ご了解下さるようお願いいたします。

ご承知のことと思いますが、当「いからしの里」は、県のミニコロニー構想の精神薄弱者更生施設として県下で6番目に昭和55年4月に開設されてから昨年で丁度10年の節目を迎えることが出来ました。これには設立準備の段階から現在に至るまでの間一偏に関係された皆様方のご援助とご協力によるものと感謝申し上げます。

そこで当施設は18歳以上の精神薄弱者を入所させて、保護するとともに、その更生に必要な生活指導、作業指導、訓練を行いながら、「健康で人に好かれ、仕事のできる人間」を目標に日常生活や行事、特別活動をとおして人間的なふれあいを大切にしながら楽しいうるおいのある生活環境の中で、意欲的な生活態度の育成に努めておるところでございます。

そこで入所者の状況といたしましては、定員50名で、三条、加茂、見附、燕の4市と栄、田上、中の島の3町に下田村からの入所者が男子25名、女子25名ずつおられ全寮制で寝食

を共に生活しております。最年少者が19歳で最高齢者が60歳と年齢の幅はありますが、感心するくらい、仲よく入所者同志がお互いに助け合いながら頑張っております。

入所者の年齢構成は先程申し上げましたが、最年少が19歳で、最高齢者は60歳で平均年齢37歳で男子35.5歳、女子38.6歳ですが50歳以上の方が6人もおられ、40歳～49歳の方が13名もおられまして、ここでも高齢化が進んでいるのが実態でありますし、障害の程度でも重度障害者が44名で、中・軽度6名と施設での重度化も進んでいるのではないかと考えております。

今後の対応として、それらの対策を構じなければならない時期に来ておりますし、その他開設以来11年になりますが、当初からの入所者が35名もおられる状況でほとんど入れ替わりがありません。県内にはいくつかの施設がありますが、ほとんどこの問題を抱えております。

これから養護学校などを終えられてどこの施設にも入所、通所できない方々、云ゆる在宅者のことも考えて行かなければならない重要課題が山積されているのが精神薄弱者福祉の実態であります。

それはそれといたしまして、少し施設の指導、訓練の内容を若干申し上げて見たいと思います。

1. 生活指導面では

社会適応並びに社会的自立を図るため主に居宅指導を中心に基本的生活習慣の形成に教養、体育余暇指導、地域奉仕活動、行事などを通じ行っております。

2. 作業指導面では

一人ひとりの入所者の能力や特性を正しく理解し、働くことの喜びを体得できるよう、特色ある作業訓練に取り組んでおります。

開設当初、地場産業とのかかわりの中で、単なる部分的な受託作業（皮引やドライバー部品の組立、キッチンセット）等の袋詰め、箱詰めなどを行っていましたが、施設ぐるみで将来性のあるものと考え、試行錯誤を繰り返しながら現在の椿の栽培、育成から和紙の原形加工に取り組みようやく和紙を利用しての各種和紙の印刷（名刺、ハガキ、色紙など）から紙の染色をはじめ、各種和紙製品づくり（鯛車、六角凧、しぼり紙、手紙セット、菓子揚枝セット、銘々皿、札入れなど）、小物類の独自性の製品作りに、その他、竹を利用した竹花器、その他竹細工にもそれぞれ取り組んでおりまして、それらの製品を現在燕・三条駅の観光物産センターと地場産業振興センターで展示即売を行っていただいているところであり、年1回11月に東三条の長崎屋さんの3F催事場で作品展示即売を行ってございまして、皆様から好評をいただいているところであります。

3. その他の活動としては

社会参加と自立促進するために買物指導、社会見学等を行っております。

以上が日常生活訓練指導の概要ですが、そこで、今後とも、都市型ミニコロニーの現実を目指して、①施設の存在はあくまでも地域に密着した施設であることを念頭に、誰からもうとまれることなく、心身障害者が着実に地域社会に受け入れ“共に生きる”福祉のニーズに応じて行きたいと思っております。それに、②生きがいは、人間本来が持つ、適性能力に応じた仕事に従事し、成就感を体得することを最大の喜びとすることにはじまると思いますが、重度精神薄弱者といえども仕事に参加し、習熟する間に単なる技術上達というだけでなく全人的、自己形成に迫るものと考えております。

遊びから仕事への移行は人間生活の常道ともいわれておりますが、精薄者のために何よりも仕事場の雰囲気様が大切であります。この雰囲気づくりに努力しながら、その仕事に参加する精薄者一人ひとりの適性能力を引き出し、仕事をさせるという押しつけでなく、精薄者自らが仕事をしようと求める心呼びさますためにも気を入れて行かなければならないと思っております。

それからミニコロニーの特色として、来所養護という制度がありまして、施設は、家庭の延長であるということで、毎月1回～2回程保護者の方に宿泊していただいておりますし、家庭との連けいを保つためにも年間約30日間位家庭実習ということで家庭で過ごすことになっております。

以上「いからしの里」の概要を申し上げましたが、今後、地域に密着した施設の社会化、一般社会との交流を深めるためにもボランティアの来所を待っております。そして、開かれた施設作りに努めて参りたいとも考えておりますので、これからも皆様方のご援助とご協力をお願いいたします。

その他、参考までに申し上げますが、三条市の心身障害者の福祉施設として「いからしの里」の他、社会福祉法人県央福祉会で運営しているのが、西本成寺にございます授産施設（通所）「杉の子工房」がございまして。この施設は、他の施設からの社会復帰や在宅からの就職という急激な変化に対応できず、社会的自立がむずかしい中・軽度の就労困難な、15歳以上の精神薄弱者を保護者のもと、いわゆる在宅で通わせてその能力や特性に応じた生活指導、作業指導を行い、社会的自立のための訓練と職業を与えて自活させることを目的としております。現在25名の方々が通所されております。

次に精神薄弱者福祉ホーム杉の子の家がございまして。ここは、就労している精神薄弱者であって、家庭環境、住宅事情等の理由により、現に住居を求めている者に独立した生活を営むために利用させ、就労に必要な日常生活の安定を確保し、その社会参加自立の助長を図るための施設であります。

いま一つこれに似た施設で、精神薄弱者施設、通勤寮長久の家がございまして。ここは就労しているが、就職見込みのある15歳以上の中・軽度の精神薄弱者を一定期間入所させ、対人関係の調整、余暇の活用、金銭の使途など独立自活に必要な指導を円滑な社会自立を

図るための施設であり、現在29名の方が入っておられ、この4月から30名の定員になりますが、これらの方は主に三条市内工場、事業所に就職して健常者と共に企業の一員として一生懸命頑張っているところでもあります。

これらが公的施設でございますが、先程も申し上げましたが、まだまだこれら公的施設に入りたくとも入れない在宅の精神薄弱者が多勢いられます。そこで、それらの保護者の会で精神薄弱者育成会が金を出し合って作られました。

精神薄弱者福祉作業所さくらの家がございます。この「さくらの家」はかつて「杉の子の家」と称し「いからしの里」や「杉の工房」の生みの親であった三条市における心身障害者の福祉や教育の拠点となって大きな役割をはたして来た大変重要作業所でもあります。

ここは、雇用されることが困難な在宅の精神薄弱者を家庭から通わせ、保護者並びにボランティアの協力を得ながら作業訓練を行い、社会参加と自立をめざしているところでございます。

以上「いからしの里」の現況と心身障害福祉の現況に三条市の心身障害者福祉施設の概要を申し上げて来ましたが、これからも皆様方のご協力を重ねてお願いいたしまして、私の話しを終わらせていただきますが、早口で聞きとりにくかったかもしれませんし、又何かまとまりのないような話しを申し上げましたが、元来話しべたでもあり、こんな多勢の方の前で話しをするのは初めてのことでございますので、それに免じてお許しを願ひまして終わらせていただきます。

大変ありがとうございました。今後とも皆様方のご発展とご活躍を期待申し上げます。

3月20日例会 卓話 中越健康ランド ポエム 総支配人代理 五十嵐俊二殿

3月27日例会 卓話 保内園芸組合 組合長 堀江健之助殿

4月3日例会 創立記念例会 PM6:30～ 於 松木屋

PolioPlus



「開発途上国の新生児を対称に
ワクチン投与資金協力を」